

来歴認承増殖都市

～歴史が育んだ‘凶々しさ’が成長させる三河島建築～

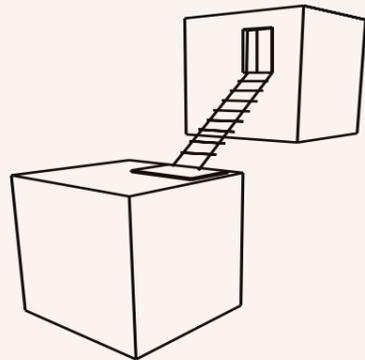
一つひとつの街には歴史がある。歴史が人々の性格を生み出し、その一人ひとりの空間の使い方が集積して街は成長していく。現代の再開発事業において超高層建築を建てる際、その土地の過去を拭い去り、そして巨大な箱を作ってしまう。

そのアンチテーゼとして今まで積み重なった歴史を継承し、そこから生まれる人々の空間に対する愛着や占有する気持ちを礎にして、増殖する都市の構成法を提案する。

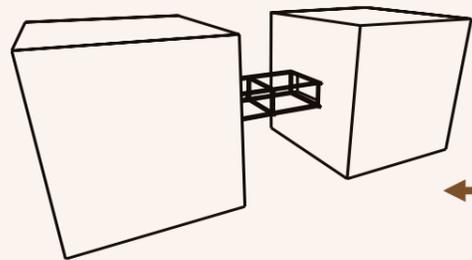




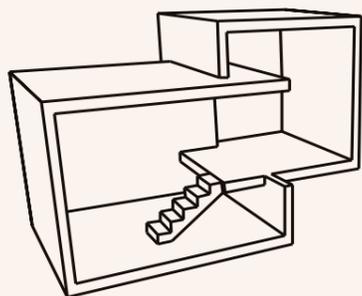
〈居住空間増殖後〉



ブリッジや階段、はしご
がかり始める「増殖居
住動線」



リビングやキッチン
など住民が気ままに延
長した「拡散共有空
間」

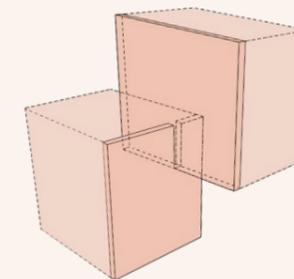


ベッドやトイレ、浴室など
最小限の機能を持った個別
空間が家族を吹き抜けでつ
なぐ。

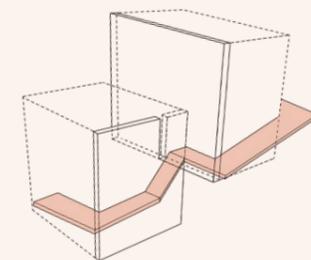
増殖



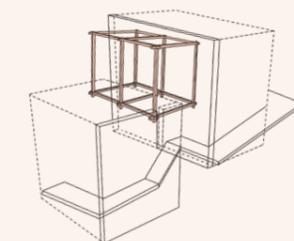
〈居住空間増殖前〉



侵食誘発空間を背
負った「もたれ合
う壁」



パーソナルモビリティ
により重力の概念が変
わったことで生まれた
「平坦スロープ」



空間への侵食を積
極的に喚起する基
礎フレーム



皮革工場



繊維工場



火葬場



油脂工場
〈継承歴史空間化〉



屠畜場



コリアンタウン



三河島事故

01.敷地概要 三河島の歴史が育んだ雑多でたくましく、おせっかいな空間性

JR山手線西日暮里駅から徒歩15分の場所に位置する三河島は、商店街や小規模店舗、銭湯、多様な国の店舗や多様な宗教施設などが密集する雑多で活気のある空間が連続している。

02.敷地概要 三河島の歴史が育んだ雑多でたくましく、おせっかいな空間性

歴史的背景

三河島は昔から工場と住宅が不規則にまじりあっている住工混在地帯となっており、胞衣工場や皮革工場、屠畜場、刑場などといった特に目を背けたくなるような「けがらわしい」といわれるものが集まっていた。同時期に濟州島の人々が集住し始め、コリアンタウンを形成していく。このような忌み疎まれる歴史を乗り越えるために三河島の人々が協力し合った結果、「自己主張」や「もたれ合い」が生まれ、現在の三河島が形成されてきた。



1680年

1868年

1937年

1945年

1962年

1970年

2010年

三河島菜の普及

皮革工場

火葬場

屠殺場

油脂工場

肥料工場

繊維工場

濟州島の人々の流入

コリアンタウン

三河島事故

東南アジア系流入

三河島再開発

02.調査 自己表現と占有と共有と…

■ 占有

■ スペースの活用

■ 文化の共有

■ 自己表現

■ 共有

敷地調査を踏まえて三河島の特徴である「自己表現」、「共有」、「占有」、「スペースの活用」、「文化の共有」に分類する。

8つに分類される三河島の特徴

街全体が猫の家



三河島は家猫・野良猫が町中に存在しており、玄関前には猫の皿や小屋を設置し、猫を町全体で飼っている。

空地の私物化



セットバック空間に室外機などがある場合、机代わりとして椅子を設置し、家具やリビングのように使っている。

多様な国の宗教が隙間に出現する



居住空間の一部や路地などの隙間に、信仰している宗教を自らの手で作り出す。

開放する住民



玄関や窓を開けっぱなしにしたり、家の内側に猫のお皿や家を設置し、地域猫を迎え入れている。

多様な国の食文化が集まる町



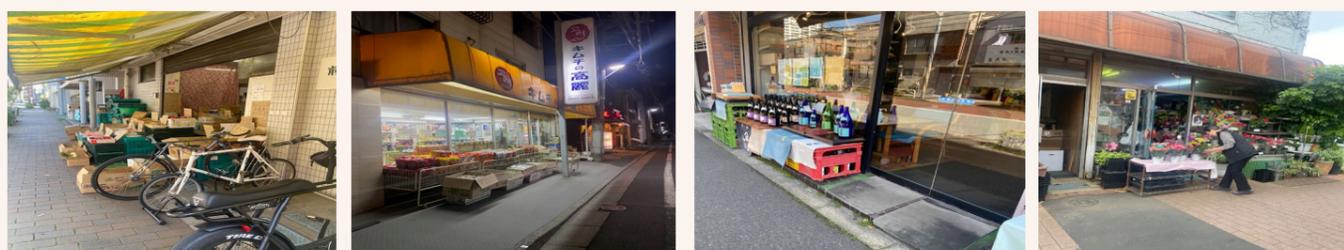
多様な国籍の人々が住まい、店先や道路に各国の文化を滲出させ、歩く人々はその空間を楽しみながら生活している。

共有する植栽・路地



植栽が双方の家に跨っており共通の植栽を育てていたり、路地に境界線がないため必然的に共用空間になっている。

道路の店舗化



商品を店先や道路に滲出させて歩く人々はその空間を楽しみながら生活している。

立面の主張（壁面・格子・庇・軒）



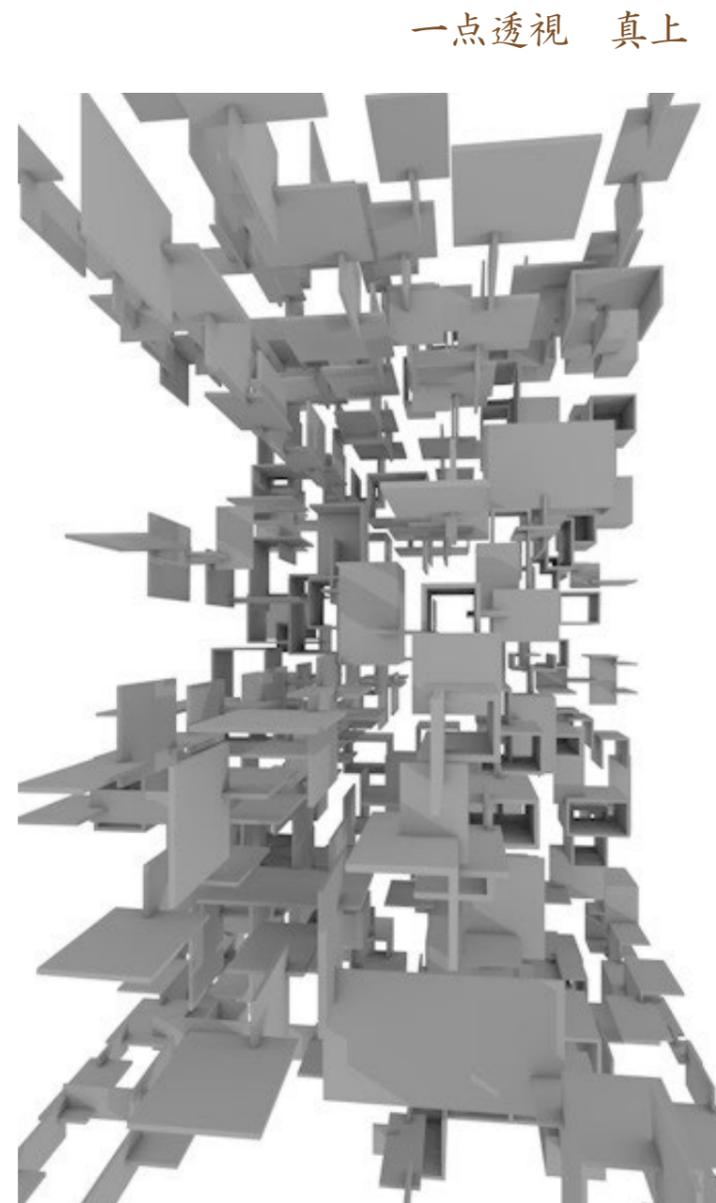
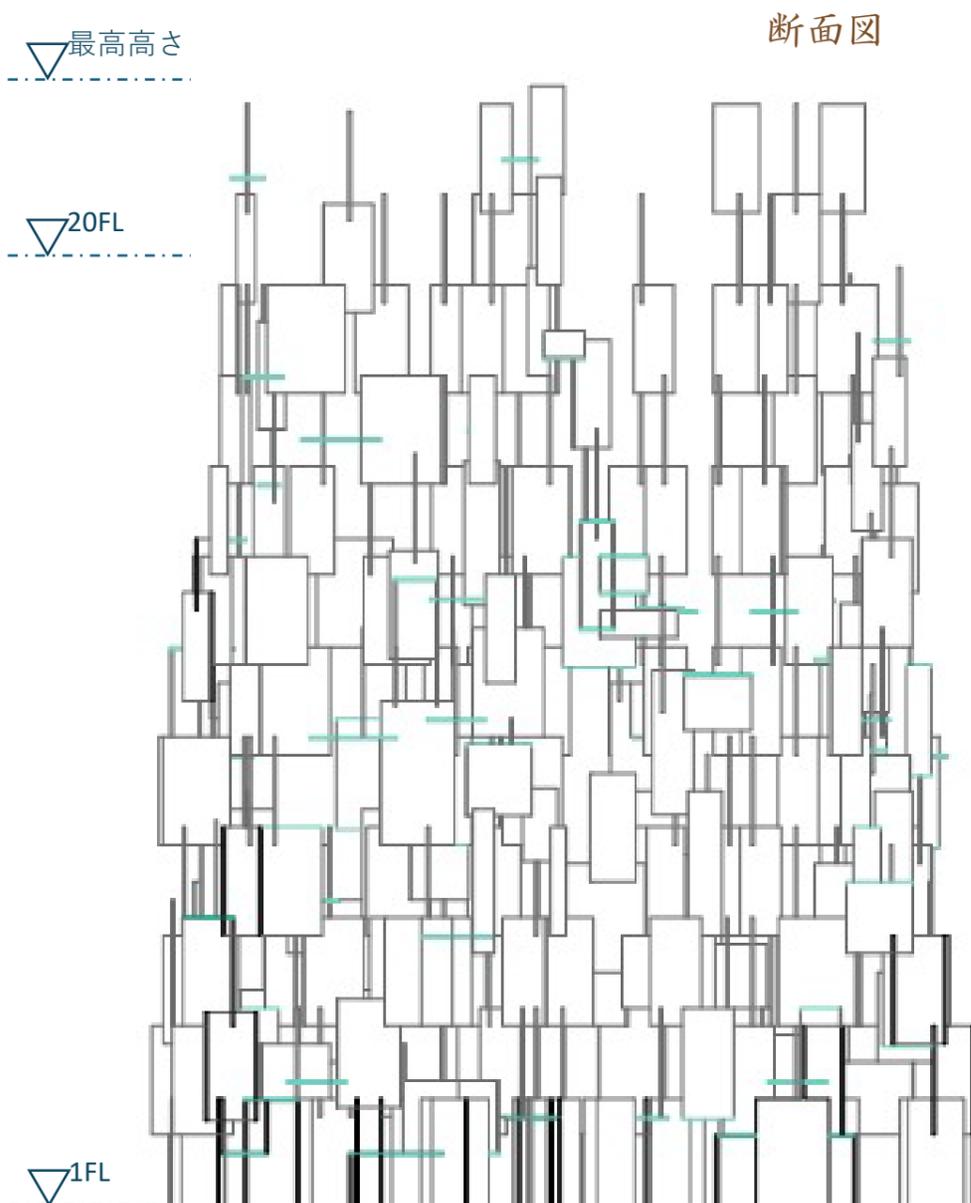
格子や壁面、軒や庇に植栽や道具を掛け、壁を倉庫のように使ったり立面や空中でさえも自分のものとして使用している。

03.空間構成手法 侵食誘発空間を背負った「もたれ合う壁」

03.空間構成手法 侵食誘発空間を背負った「もたれ合う壁」

三河島では町全体で猫を飼ったり双方の家が共通の植物を育てていたり、境界線のない家の隙間を共有の物置空間として利用するなど、人や物がもたれ合ってコミュニティが成立している。

住民が侵食することで占有し、時には共有し合う。
人々の空間認識を視覚化したもたれ合う壁を用いることで、
占有するための立体的な空間の構成と物理的な構造を一致させた。



04.設計手法 6種の基礎フレーム

住民にvoid空間を認識させ、積極的に侵食させることで、自己表現や占有・共有を誘発する空間的なシステムである。

全面フレーム



開口全体にフレームが付随し住民の様々生活が溢れる

貫通フレーム



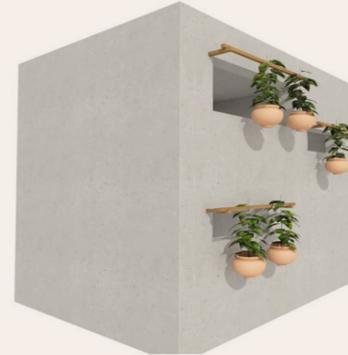
家具や植栽など貫通するものによって寸法が変化する

橋渡しフレーム



フレームを超えて板をかけ渡し、双方の家をつなぐ

ひっかけフレーム



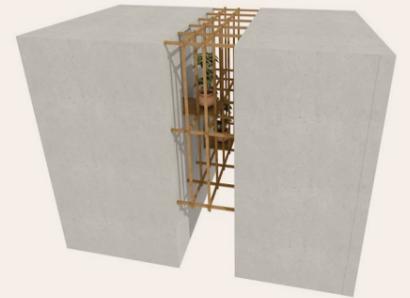
バーに工具等をかけ、倉庫のように利用できる

段々フレーム



レベル差をつけることで双方の空間を柔らかく繋ぐ

充填フレーム



隙間がフレームで充填し、リビングなどがあふれ出す

04.設計手法 6種の基礎フレーム



開口全体にフレームが付くことで、フレーム内に階段やはしごをつけ、自由に生活できる空間となる。

全面フレーム



開口にフレームが貫通し、家具や植栽など貫通するものに合わせたフレーム寸法となる。

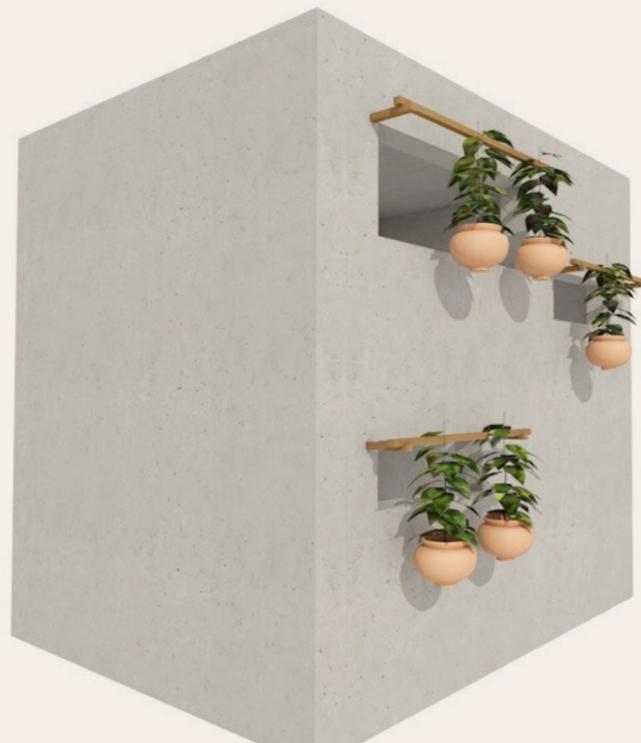
貫通フレーム

04.設計手法 6種の基礎フレーム



フレームにレベル差がつくことで、空間を柔らかく分けたり、パネルを貼ることで段々フレーム自体を椅子や机として使い始める。

段々フレーム



八百屋や生鮮店がひっかけフレームを使い始めると、野菜や肉、魚を干しだしたり住民は洗濯物や工具などをかけ始める。

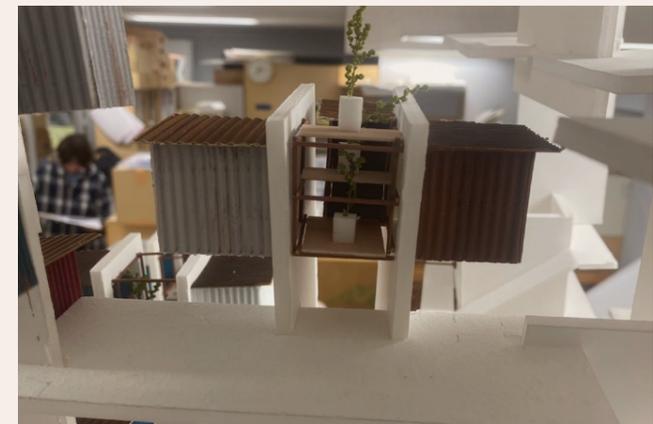
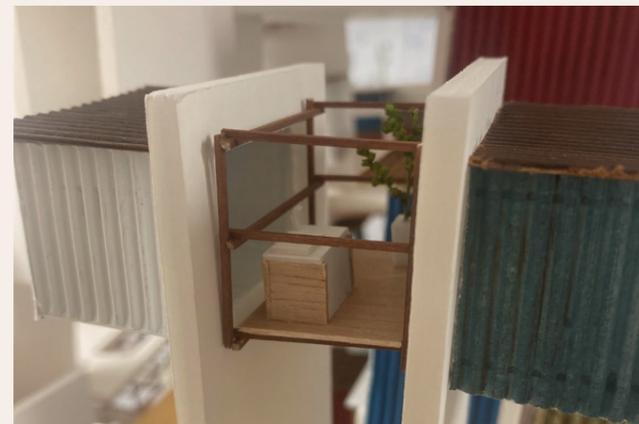
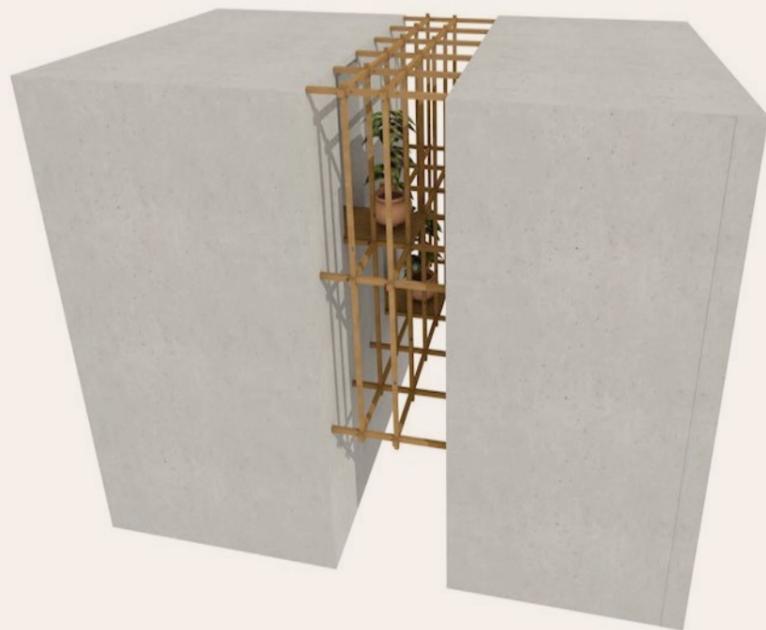
ひっかけフレーム

04.設計手法 6種の基礎フレーム



フレーム内からパネルが飛び出すことで家族以外との関わりも増え、リビングを共有するなど多様な活動が生まれる。

橋渡しフレーム



フレームを充填させることで住民の活動がフレーム内で完結し、プライバシー性の高い空間となる。

充填フレーム

05.動線計画 「平坦スロープ」と「増殖居住動線」

05.動線計画 「平坦スロープ」と住民の「増殖居住動線」

パーソナルモビリティの発達により、老人や子供を含む人々の重力の概念が大きく変わった。ある一定の勾配と幅のスロープはもはや平坦な道「平坦スロープ」として認識される。

三河島はフラットな街ながらも人や物が複雑に絡み合っている。それを三次元的に成長させるために、パーソナルモビリティの活用を前提とした動線計画を取り入れる。



セグウェイ

走行距離

40km

充電時間

8時間

車幅

W63×L48cm

回転に必要な幅

3m以上



電動車いす

走行距離

30km

充電時間

8~10時間

車幅

W60×L95cm

回転に必要な幅

1.4m以上



電動キックボード

走行距離

40km

充電時間

4.5時間

車幅

W107×L92cm

回転に必要な幅

4m以上



シニアカー

走行距離

10km

充電時間

8~15時間

車幅

W120×L70cm

回転に必要な幅

1.8m以上

- ・2mの幅があればすべてのモビリティが対応可能となるため、道幅を2mに設定。
- ・最大登坂角度を20度に設定し、スロープを組み込む。
- ・それぞれのモビリティに必要な回転幅を確保するために構造壁の水平面の板を回転スペース・駐輪スペースとして利用

「平坦スロープ」

住民が侵食する前の初期段階から付随する動線。もたれ合う壁に噛み込み、フレームを貫通しながら絡み合っ

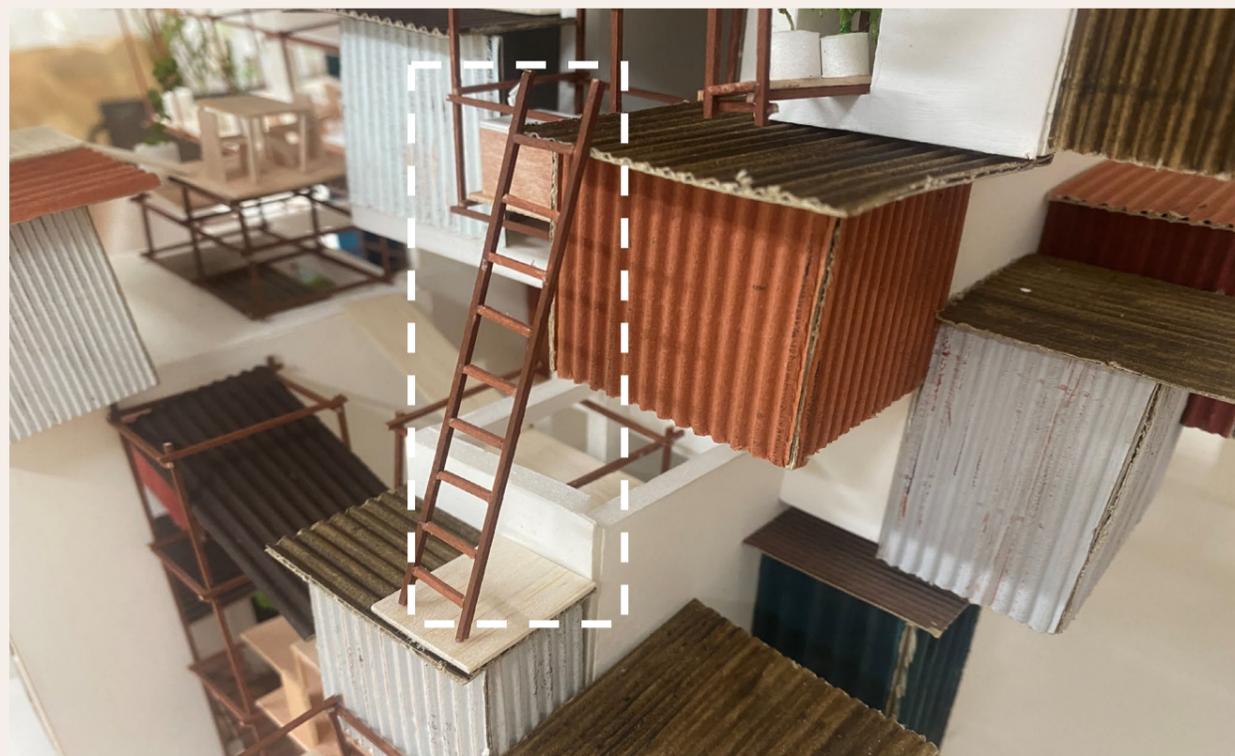
て付随する。



「増殖居住動線」

空間を侵食し、増殖していく住民のエネルギーは非常に大きく、隙間を活用するために、ブリッジや階段、はしごなどが

かかり始める。



06.設計手法 三河島住民の空間概念を形成した歴史の空間化

06.設計手法 三河島住民の空間概念を形成した歴史の空間化

目を背けたくなるようなものを含め、様々な歴史が積み重なり、時には克服することで、自己表現や占有・共有といった空間概念が形成され、協力（もたれ合い）の意識なども大きく発展した。以下の歴史を継承して空間化する。そして増殖を誘発する人々の拠所としての構成要素となる。

皮革工場



皮から革を作るための加工場、革を使ってモノづくりをする工房、皮革工場の展示空間で構成される。

繊維工場



混綿、紡績などを行う加工場、布を使ってモノづくりをする工房、オフィス、繊維工場の展示空間で構成される。

油脂工場



採油、精製などを行う加工場、飲食スペース、工房、油脂工場の歴史に関する展示空間で構成される。

火葬場



納骨をする空間や礼拝堂のような休憩スペース、火葬場の歴史に関する展示空間で構成される。

屠畜場



牛や豚、馬などの食肉の加工空間、加工場で加工されたものを食べるスペース、屠畜場の展示空間で構成される。

コリアンタウン



食品や衣服などの販売スペース、ワークショップスペース、飲食スペース、展示空間で構成される。

三河島事故



三河島事故の歴史に関する展示を行う空間、電車で使用されている椅子を用いた休憩スペースで構成される。

皮革工場

加工場（皮から革へ）



なめしや染色など、皮から革へ加工するための一連の作業が行われる空間

モノづくり（革からモノへ）



革を使ったモノづくりができるワークショップが開催される空間

展示空間（追体験）



皮革工場の歴史にまつわる展示空間や皮革の空間を体験できる

繊維工場

加工場



原綿から混綿、紡績や染色などの繊維の加工空間を挿入

工房



繊維を用いたモノづくりができるワークショップが開催される空間

オフィス空間・展示空間



繊維工場の歴史にまつわる展示空間やオフィス空間を挿入

油脂工場

加工場



原油を取り出す採油、不純物を取り除く精製、用途に合わせて物性や性質を変える加工の工程空間

工房・展示空間・飲食スペース



三河島の油脂工場で作られた油脂は、焼肉屋などへ提供されるため、飲食スペースや油脂工場の歴史を展示する空間を挿入

火葬場

納骨空間



納骨する空間や礼拝堂のような休憩する空間

展示空間



三河島の火葬場の歴史を展示する空間
和紙と木材のみで構成される。

コリアンタウン

販売スペース・展示空間



食品や衣服などを販売するスペースとコリアンタウンの歴史を展示する空間

工房



民族衣装や小物などのモノづくりができるワークショップ的空間

飲食スペース



韓国の伝統的な料理などを食べるスペース

三河島事故

展示空間



三河島事故の歴史にまつわる展示空間

屠畜場

食肉加工場



牛や豚、馬などの食肉を加工する空間

飲食スペース・展示空間



食肉加工場で加工されたものを食べるスペース、屠畜場の歴史を展示する空間

07.設計手法 增殖居住空間（拡散共有空間＋最小個別空間）

07.設計手法 増殖居住空間（拡散共有空間＋最小個別空間）

拡散共有空間

人々は侵食空間に共有できる生活スペースを出してしまう傾向が強い。リビングやダイニング、キッチン、趣味の空間などが住民が気ままに侵食した「拡散共有空間」にあふれ出す。



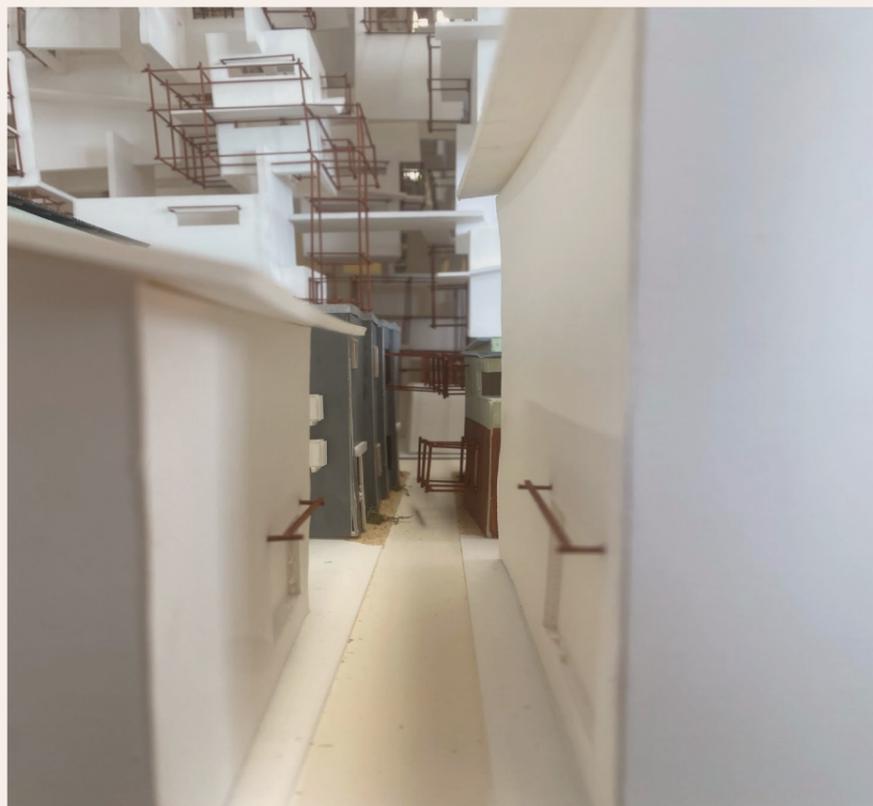
最小個別空間

より多くの住民がせめぎ合いながら居住空間を探し出す。トイレや浴室、ベッドなどの最小の個別空間が折り重なるように住民たちの手により作られ増殖していく。



08.設計手法 既存の街との融合

住民侵食フレームが街に流れ、そして消えていくことで、侵食空間は町の空間となっていく。



09.来歴認承都市内で想定される多様な活動









